

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	ページ
32112	坂の上の雲ミュージアム施設管理運営事業	坂の上の雲まちづくり部	坂の上の雲ミュージアム	2
32112	坂の上の雲ミュージアム企画展示事業	坂の上の雲まちづくり部	坂の上の雲ミュージアム	3

令和5年度 松山市事務事業シート（令和4年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	坂の上の雲ミュージアム	担当G	坂の上の雲ミュージアム	連絡先	915-2601	
部長等名	家串 正治	課等長名	石丸 耕一	リーダー	伊藤 彰規	担当	芝 啓作	井上 敦子

1.事業概要【Plan】

事業名	坂の上の雲ミュージアム施設管理運営事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	3:指定管理	
32112							
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する		○	○	-	○	
施策	選ばれる都市づくり						
主な取組	まちの特性を生かした魅力づくり	根拠法令	松山市坂の上の雲ミュージアム条例 松山市坂の上の雲ミュージアム条例施行規則 松山市坂の上の雲ミュージアム事務規則				
取組みの柱	坂の上の雲ミュージアムの活用						
目的・背景	坂の上の雲ミュージアムは小説『坂の上の雲』の3人の主人公(正岡子規、秋山好古、秋山真之)が抱いた高い志とひたむきな努力、夢や希望をまちづくりに取り入れた『坂の上の雲』を軸とする21世紀のまちづくり構想の中核施設として誕生した。小説に描かれた主人公の足跡や明治という時代に関する「展示機能」をはじめ、小説ゆかりの史跡の魅力を紹介する「フィールドミュージアムガイダンス機能」、地域主体で行われる地域資源活用の取組などの「まちづくり支援機能」を持った複合施設として、訪れた人々が時の流れについて感じ、考える場を提供することを目的としている。						
対象・内容	資料調査、展示物の維持管理、充実、周知啓発、各種活性化事業を実施し、坂の上の雲ミュージアムの利用促進を図る。 坂の上の雲ミュージアムの維持管理に指定管理者制度を導入し、施設の安定稼働を図る。 市民に対して、各種講座(ミュージアム講座、大学連携市民講座)や定例イベント、子供向けワークショップ等の開催・情報発信を行い、利用促進を図る。 観光客に対して、関係部門や県内外の博物館等との連携によるPR活動を行い、利用促進を図る。 外国人に対して、施設案内パンフレット等の多言語化を実施し、利用促進を図る。						

2. 事業実施【Do】

		会計	一般会計	款	商工費	項	観光費	目	観光資源開発費
事業費/財源		令和3年度	令和4年度	令和5年度					
予算 (千円)	事業費計	108,982	108,829	129,995		主な経費 (千円) 【R4 決算】	指定管理料		87,998
	国費・県費						展示情報システムの機器・ソフトウェア賃借料		2,047
	市債						展示情報システムの運用支援委託料		1,917
	その他	21,032	21,032	25,040					
	一般財源	87,950	87,797	104,955					
決算 (千円)	事業費計	106,134	105,471			主な取組 内容 【R4】	・指定管理者制度による施設維持管理及び運営 ・資料調査、展示物の維持管理、充実、周知啓発、各種活性化事業等の実施。 ・開館15周年記念事業として、記念イベント・記念シンポジウムを開催。		
	国費・県費	453	1,908						
	市債								
	その他	8,212	18,266						
	一般財源	97,469	85,297						
人役	正規職員	3.5	3.5	3.8		特記事項			
	その他	1.0	0.5	0.5					
	合計	4.5	4.0	4.3					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標の達成又は未達成要因の分析(令和4年度)
	目指す方向性	単位						
活動指標	2階ホール等を活用したイベント・展示等の開催	目標	100	100	100	100	新型コロナウイルス感染症の特別警戒期間が終了し、主催者等のイベント再開に向けた取組が徐々に戻りつつある回復期であった。	
		実績	75	81				
		単年で増	回	達成率	75.0%	81.0%		
成果指標	入館者数	目標	90,000	90,000	110,000	110,000	新型コロナウイルス感染症の特別警戒期間が終了し、感染再拡大への注意をしながら来館される方が増加した。	
		実績	46,034	87,954				
		単年で増	人	達成率	51.1%	97.7%		
事業評価	評価	一部の取組は期待した成果をあげられなかったが、全体としては概ね順調						
	理由	2階ホール等を活用したイベント・展示等の開催は、コロナ禍による全国的な自粛ムードのため、目標を達成できなかった。再開の機運が全国的に高まった夏以降はイベント等を中止・縮小することなく開催することができた。また、来館者数はコロナ禍以前の約8割まで回復し、概ね目標人数を達成することができた。						
課題	平成22年度をピークに来館者数は減少傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてさらに減少した。5月8日の5類感染症移行後は、多くの来館者が訪れるように市民や観光客、研究者など幅広い世代へ周知・啓発を図る必要がある。			今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	今後も坂の上の雲ミュージアムに親しんでもらえるイベント開催や来館者サービス水準の向上に努め、市内外多くの人に小説『坂の上の雲』のメッセージを伝えていく。	

令和5年度 松山市事務事業シート（令和4年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	坂の上の雲ミュージアム	担当G	坂の上の雲ミュージアム	連絡先	915-2601	
部長等名	家串 正治	課等長名	石丸 耕一	リーダー	伊藤 彰規	担当	上田 一樹	西松 陽介

1.事業概要【Plan】

事業名	坂の上の雲ミュージアム企画展示事業		事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	2:委託	
32112								
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			○	○	○	○	
施策	選ばれる都市づくり		根拠法令	松山市坂の上の雲ミュージアム条例 松山市坂の上の雲ミュージアム条例施行規則 松山市坂の上の雲ミュージアム事務規則				
主な取組	まちの特性を生かした魅力づくり							
取組みの柱	坂の上の雲ミュージアムの活用							
目的・背景	開館前に開催した「坂の上の雲 記念館展示専門委員会」からの答申を最大限に尊重し、毎年テーマを新たに企画展を開催している。多角的な視点から小説『坂の上の雲』の時代と世界に関する企画展を開催し市内外へ広く発信することで、市民に『坂の上の雲』のまち松山への愛着と誇りを感じてもらい、市外の方々に「行ってみたい」「住んでみたい」と思ってもらうことを目的としている。							
対象・内容	松山市民、観光客を対象とした企画展示 ・坂の上の雲ミュージアム企画展示の企画、調査、展示設計、展示制作を行う。(2月頃展示入れ替え) ・企画展示に関連した記念講演会等を行う。 ・企画展示の図録を製作する。 ・音声ガイドに関する業務を行う。(内容更新、機器の賃借) ・そのほか大規模に行う展示にかかる業務を行う。							

2. 事業実施【Do】

		会計	一般会計	款	商工費	項	観光費	目	観光資源開発費		
事業費/財源		令和3年度	令和4年度	令和5年度							
予算 (千円)	事業費計	22,123	24,438	26,197		主な経費 (千円) 【R4 決算】	展示・映像制作及び設置等の委託料		8,382		
	国費・県費							展示基本設計の委託料		3,630	
	市債								音声ガイドシステムの更新委託料		1,903
	その他	1,253	1,253	1,440							
	一般財源	20,870	23,185	24,757							
決算 (千円)	事業費計	16,907	21,689			主な取組内容 【R4】	・第16回企画展テーマ展示「明治日本のリアリズムー未来へ」を開催。				
	国費・県費										
	市債										
	その他	503	1,331								
	一般財源	16,404	20,358								
人役	正規職員	3.5	3.5	3.5		特記事項					
	その他	1.0	0.5	0.5							
	合計	4.5	4.0	4.0							

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和4年度)
	目指す方向性	単位						
活動指標	メディア等へのPR(広告)	目標	360	360	850	850	インスタグラムの投稿を毎年実施したほか、広報まつやまラジオで定期的にPRに努めた。	
		実績	330	852				
	単年で増	回	達成率	91.7%	236.1%			
成果指標	入館者数	目標	90,000	90,000	110,000	110,000	新型コロナウイルス感染症の特別警戒期間が終了し、感染再拡大への注意をしながら来館される方が増加した。	
		実績	46,034	87,954				
	単年で増	人	達成率	51.1%	97.7%			
事業評価	評価	期待した成果をあげることができた。						
	理由	目標値を上回るメディア等へのPRを実施することができた。 来館者数がコロナ禍以前の約8割まで回復し、概ね目標人数を達成することができた。						
課題	平成22年度をピークに来館者数は減少傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてさらに減少した。5月8日の5類感染症移行後は、多くの来館者が訪れるように市民や観光客、研究者など幅広い世代へ周知・啓発を図る必要がある。			今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	今後も毎年新しい企画展を開催することにより市内外多くの人に小説『坂の上の雲』のメッセージを伝えていく。	